

[021]言語科学表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/6796167>

出版情報：言語科学. 21, 1986-03-30. The Group of Linguistic Studies College of General Education, Kyushu University

バージョン：

権利関係：

森山隆教授をしのぶ

森山隆教授は去る昭和60年11月1日、病気のためなくなられました。

森山さんは昭和29年3月、九州大学文学部国文科を卒業、その後、同国文学教室の助手を勤められました。昭和36年7月に九州大学教養部に講師としておいでになり、続いて、昭和38年5月に助教授、更に昭和46年10月に教授に昇任されました。

森山さんの助手時代に、私も同じく独文学教室の助手を勤めておりましたので、助手会などのおつき合いが若干はありましたが、その後はほとんど親しくする事はありませんでした。森山さんが既に若いころから胸を病んでおられ肺の切除のため、歩く時に少し傾きかげんであったことは今も憶えています。病院に勤めておられた奥様との出会いも、どうやらそのあたりにあるらしい、との風聞もありました。森山さんは福田良輔教授の指導の下に、一貫して我が国上代語の音韻研究に没頭され、特に倭人伝から奈良朝末までのおよそ六世紀にわたる日本語の母韻体系とその変遷に関する問題と取り組まれたのです。母韻対応、音節結合、母韻交替、母韻の音価、母韻音節の脱落・縮約現象などがそうです。これらの研究は昭和45年、「上代国語音韻の研究」という書物となって結実し、これにより文学博士の学位を授与されました。

森山さんは永年にわたり、本教養部の教育と研究に携わる他に、多くの委員を務められました。しかし、健康をとり戻すことなく、激務を続けることはできなかったのです。

ここに謹んで森山隆教授の死をいたみ、御めい福をお祈りする次第です。

昭和61年1月31日 樋口忠治